



新ひだか町の花き栽培



- ▶ 平成元年より花き栽培を開始
（三石地区（当時三石町）の6戸でストックを栽培）
- ▶ 同年、みついし花き振興会設立
- ▶ デルフィニウムは平成7年よりベラドンナ系で栽培開始
- ▶ 以降、シネンシス系、エラータム系を導入

みついし花き振興会

- ▶ JAみついし、JAしずない、JAひだか東の農業者合わせて58戸が栽培
- ▶ 売上金額は約8億円（令和5年）、全体の約70%を占めるデルフィニウムを中心に、スターチス、SPマム、ダリア、ラナンキュラスなど栽培
- ▶ 商標登録「みついし花だより」ブランドで販売



UV-B電照導入のきっかけ

- ▶ デルフィニウムのうどんこ病は、毎年、品質や採花率を下げる要因となっていた
- ▶ メーカーの勧めもあり、令和元年に新ひだか町農業実験センターで試行
- ▶ 秋季の電照栽培を行っているため、設備面ではハードルの高いものではなかった



新ひだか町農業実験センター

平成元年に設立（当時：三石町農業実験センター）

平成元年に花き・野菜の振興を図るための研修施設として設立

主な事業

- 担い手育成（農家指導・研修生受け入れ）
- 育苗管理（デルフィニウムの短日夜冷育苗の受託等）
- 花き栽培等の課題に応じた試験栽培・実証栽培
- 土壌分析



新ひだか町農業実験センター 病害虫防除の効果確認試験

- ・ デルフィニウムでの調査・試験は令和2～5年度に実施（令和3～5年は花野菜技術センターと連携）
- ・ UV-Bランプの照射（夜間3～4時間）を試験区とし、慣行防除区と比較
- ・ シネンシス系・エラータム系品種で発病株率調査



新ひだか町農業実験センター 病害虫防除の効果確認試験



【令和2年】

試験区（うどんこ病対策：UV-Bのみ）では、
抑制作型でうどんこ病が激発

○促成作型病害調査
（11/15定植「オーロラブルーインフ」）

	発病株率 (%)
慣行防除区	18.1
試験区	15.6 ☺

○抑制作型病害調査
（8/6定植「マリブルー」）

	発病株率 (%)
慣行防除区	2.5
試験区	100.0 ☹

新ひだか町農業実験センター 病害虫防除の効果確認試験



【令和3～5年】

試験区（UV-B + 2～3回の薬剤散布）は
慣行防除（5～7回の薬剤散布）と同等

○7月採花作型病害調査
（R5年4/7定植「オーロラブルーインフ」）

	防除 回数	発病株率 (%)
慣行防除区	7	0.0
試験区	2 (+1)	3.3 ☺

○9月採花作型病害調査
（R5年8/4定植「オーロラブルーインフ」）

	防除 回数	発病株率 (%)
慣行防除区	7	0.0
試験区	2	6.7 ☺

新ひだか町農業実験センター 病害虫防除の効果確認試験

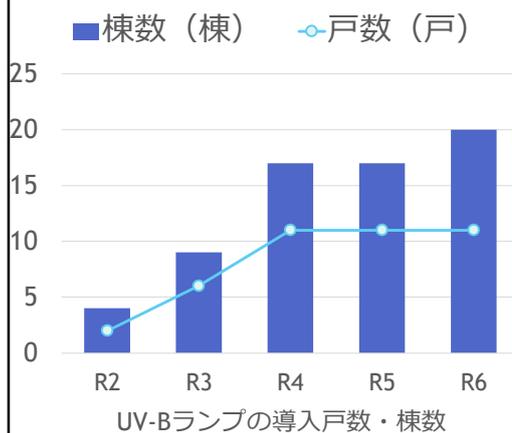
- ▶ 振興会の反省会や栽培講習会で結果と使用上の留意点を情報提供



紫外線（UV-B）照射による防除の留意点

1. うどんこ病初発の早期発見と防除に努める
2. エラータム系は生育期間が長いため、採花期の病害発生に注意する
3. ハウスの側窓側はうどんこ病が発生しやすいため、電照設置位置はやや外側に設置すると良い

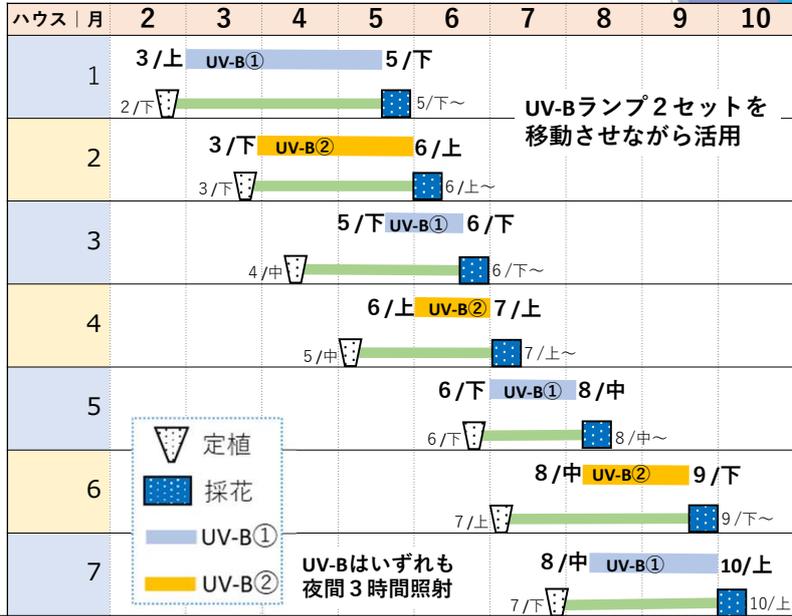
UV-Bランプ導入状況（JAみついし調べ）



- ▶ 令和2年～4年で戸数・棟数が増加
- ▶ 令和6年は戸数がそのまま棟数が増加している
- ▶ 試験展示ほに農業者が立ち寄りやすい環境で、情報交換や導入判断が進みやすい
- ▶ 事業（道事業：地域づくり総合交付金）の活用も後押しに

導入事例 (Aさん : シネンシス系)

▶ 令和6年のデルフィニウムの作型とランプ設置の状況



導入事例 (A農家 : シネンシス系)

▶ 令和6年のデルフィニウムのランプ設置の状況

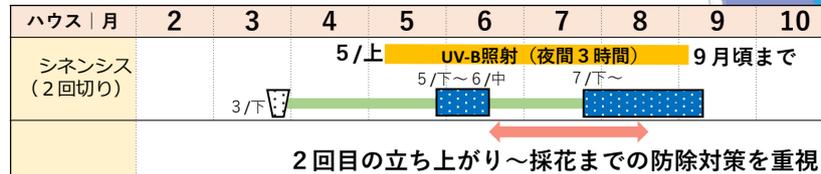


うどんこ病の防除回数は1~2回低減できる感触を持っている。虫の誘引は防風ネットがあるのであまり気にならない。



導入事例（Bさん：シネンシス系）

▶ 令和6年のデルフィニウムの作型とランプ設置の状況



- ・ 2回切りの作型のハウスに設置
- ・ 小トンネル除去時（5月上旬）から2回目（2番）採花期まで、夜間3時間の照射



2回目（2番）はハダニやうどんこ病で採花率が極端に落ちることもあった。慣行防除とUV-Bランプの組み合わせで採花率の安定につながっている。

導入農家の意見・使用状況など

シネンシス系ではUV-Bランプとうどんこ病防除2回で採花できた

夏季の使用時、夜間に虫が多く入ってきたので使用を控えている

通常の薬剤防除でうどんこ病を抑えているので、今年
は使用を控えている

他の病害虫防除を行うので散布回数が変わらず、省力化には
つながっていないと感じている

R4導入タイプ（らせん型）は割れやすく、設置や撤去時に気を遣う

問題点・課題

- ▶ 夜間に虫（ガ類・カゲロウのような虫など）が誘引されるため、使用していない時期がある
- ▶ 虫の対策については防虫ネットの活用事例もあり、優良事例などの情報共有や侵入の対策強化が課題

地域の戦略（防除の考え方）

- ▶ UV-B電照
実験センターでデルフィニウム以外の品目の防除効果も調査中
- ▶ 全体的な病虫害防除
振興会・実験センター・JA・普及センター等で、防除に関する試験・調査、情報共有を行っていく



今後、期待すること

▶ UV-Bランプの活用について

夜間の虫の誘引が少なくなれば、利用は拡大するのではないか

▶ 電照を使った総合的な防除法の発展

防除作業の回数の削減＞設置の手間・初期経費

1つのランプで複数の対象病害に対応できる、など

ご清聴ありがとうございました